

「CAN-DOリスト」作成手順

「CAN-DOリスト」の形で設定した学習到達目標

	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
第5学年	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる	ア <u>大文字、小文字を活字体で書くことができる</u>
	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる	イ 「読むこと」の指導の初期段階なので、第5学年の到達目標は、アルファベットの名称が読めるようにするところまでとした	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる	「書くこと」の指導の初期段階なので、第5学年の到達目標は、アルファベットを書くところまでとした
第6学年	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる	ア	ア	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる	ア 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる
	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。また、音の読み方に慣れ親しむことができる	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝えることができる	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる
	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる	ウ	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる	ウ

作成手順

① 小学校の学習到達目標を確認する

小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2各言語の目標及び内容等を参照し、目標(1)～(5)を卒業時の学習到達目標とする。

② 第5学年と第6学年で到達すべき目標を分ける

学校や児童の実態、使用する教科書の内容に応じて、学習到達目標の到達すべき時期を、第5学年と第6学年に分ける。



内容を検討する

各学年の学習到達目標の内容を、地域や学校の特色、行事、総合的な学習の時間で行う内容、予定している言語活動などから、具体化して記述することも考えられる。

アルファベットを書くことが身に付いているので、第6学年の到達目標は、語句や表現を書き写したり書いたりすることとした

使用教科書を参照すると、指示・依頼に当たる内容は第5学年で学習するので、第6学年では空欄とした

学習指導要領解説では、文字が示す音の読み方（フォニックス）についても指導することが示されている